

我が家の二年生と五才の女兒に、記憶の残像の実験を試みる。

「あとかくしの雪」(民話)

「ちがいくらべ」(まどみちお)

「血の話」(説明文調)

「どうして夢をみるのかな」

(説明文)

「あとかくしの雪」

五才児

A読み聞かせ直後

あのね。たびびとがね。おうちにとまらしてくれたのね。そうしてね。なんかね。となりのなんかぬすんできたのね。そして、たべさしたのね。たびびとに。

それからね。すこしたってからね。たびびとが、こういったのね。

「ゆきが、ふってきたよ。」

そしてね、たびびとが、こっそり、にげていっちゃってね。

そしてね。つぎの朝ね。目をさました時にはね、たびびとがまだ、いたのね。ゆうべにげたのね。またいたんで、びっくりしたのね。

そうして、しばらくしてから、たびびとがまた、こっそりにげていったのね。

だから「あっ。」って、とま

らしてくれた人がね。外に出てみたら、にげていたからね、

「雪どろぼうだ。」っていったらね。みんながいてね。町中の人いきこえてしまつてね。おいかけたなら、もうきえていたの。

B二十四時間後

(うーんとねわすれちゃった。)(とちゅうからでもいい?)

あのね。たびびとがね。(うーんとね。)ひとぼんとめてくれるうちはないかなあって、町中にいったの。

そして、あったのね。そしてよるになって、たべるものがないので、しょうがなくて、大きなとなりの家にいって、おやねからぶらさがっているやさいをとってきて、やさいやきにしてね、たべさせたのね。

そして、たつてからね。よるになって、たびびとが、出ていってしまったのね。とめてくれる人が、もう、朝に、知っていったのね。「たびびとが出ていったぞう。」って、町の人に知らせたら、みんながわかつて、

やっと見つかつて、そして、けいさつにらせちゃったの。(そういうお話だと思うよ。)

O二週間後

あのね。むかしむかしね。たびびとがいてね。とめてくれなかねえっていつてね。(うーん)そしてね。ゆうべね、なんにもたべるもんがないからね。とうとう、となりの大きな家のぶらさげてあったキャベツをとってきて、キャベツやきにしてね、

たべたの。そして、もうたびびとが、外に出て、雪をぬすんじやったの。

(あとわすれちゃったの。)

八才児

A読み聞かせ直後

あるところに、びんぼうなお百姓が住んでいた。ある雪の晩もう暗くなったところのことだ。旅人がきて、

「おらを、ひと晩とめらしてくることはできんかのう。」といった。

それで、お百姓は、自分が食べるもんがろくにないの

「おらのうちは、何もな

とまってくれ。」といった。

それで、その旅人は「何もいらんぞ。」とい

つて、その貧乏なお百姓の家にとまっ

る物がな。しかたがないので

となりの家の大根が植えてあるところから、大根をとってきて大根やきにして、旅人にくわせてやった。

それが、すごく寒い雪の晩じやったから、旅人は、「うまい。うまい。」というて、くうてや

った。その日は、ちょうど旧の十二月二十三日のことだから、それからは、十二月二十三日になると、大根やきをくう家もあった。雪で寒い時は、おこわをたべる家もあるそう。

B二十四時間後

あるところに、貧乏な旅人が住んでいました。ある日、もう暗くなった時に、旅人がきて

「おらを、ひと晩とめてくれることはできんかのう。」

といった。

お百姓は

「おらのうちは、何もな

とまってくれ。」

といった。旅人は「何もいらんぞ。」

といつて、お百姓の家に入って

から、しかたがないからとなり

の大きな家の大根が植えてあるところから、大根を一本ぬすんできて、大根やきにして食べさせてやった。

その晩は、雪がさらさらとふつてきて、寒かったので、旅人は「うまい。うまい。」

といつて、食べた。

その日は、旧の十二月二十三日だったので、それからは、十二月二十三日になると、大根やきを食う家もあった。寒い時には、おかゆを食べる家もあるそう。

O二週間後

むかしむかし、貧乏なお百姓がいました。

ある日の夕方、もう暗くな

たころ、旅人がきて「おらを、ひと晩とめてくれることはできんかのう。」

といった。お百姓は

「おらの家は、何もな

とまってくれ。」

といった。旅人は「何もいらんぞ。」

といつて、お百姓の家に入って

自分の食べるもんがない。しかたがないので、となりの家の大根畑のところから、大根をとってきて、大根やきにして、旅人に、食わせてやった。旅人は、その夜は、さらさらと雪がふって寒かったの

「うまい。うまい。」
 といいて、よるこんで食べた。それから少したって、お百姓がぬすんだ足あとは、もう雪で消えていた。

それは、旧の十二月二十三日だったので、それから、十二月二十三日になると、大根やきを食う家もあったし、寒い時には、おこわをたいて食べる家もあるそう。

「血の話」

五才児

A 読み聞かせ直後

ころんで、いたい。ひざがいたい。ちが、すこし出た。なめるとしおからい。そのままにしておくと、ひらべったくなる。

(それからね。それからーなんだったっけなあー。)

血は、心臓にあって、おとなは、体が大きいから、いっぱいあって、子どもは、中ぐらいでしょ。だから、中ぐらいあって

動物は、いっぱいあるの。(そしてね。うーんとー。うんと。)

ねむると、心臓は、まだ動いているのね。
 (それからー。あと、わかんない。)

B 二十四時間後

いたい。ひざが、やぶけた。ちが出た。なめるとしおからい。そのままにしておくと、かわく。

C 二週間後

いたい。すべてころんだ。(それからねえー。)(わかんない。)

八才児

A 読み聞かせ直後

いたい。ひざをすりむいた。きず口から血が出ている。なめるとしおからい。そのうちに、血がかわいてしまった。
 (あとおぼえていることばは、血管と白血球と血小板と……)

血は人間や動物にとって、とても大切なものだ。
 血は、みんながねむっている時も、休まず動いている。まわっている。

B 二十四時間後

いたい。
 (えーと、あとあったんだけどなあ。)

血は、動物や人間にとっても大切なものです。
 (あと名前は血管と白血球と……)

C 二週間後

(血の話は、ぜんぜん、わかんないよう。名前だけでもいい？血管と白血球と……それから……)

「どうして夢を見るのかな」

五才児

A 読み聞かせ直後

あさいねむりの時は、夢を見ます。ぐっすりねた時は、夢を見ません。

B 二十四時間後

(もう、むずかしいことばっかり聞く／＼)
 (わかんないよう。)

C 二週間後

(読んでないよ。)
 (わすれちゃった。)

八才児

A 読み聞かせ直後

見たり、聞いたり、考えたり、

話をしたりするのは、脳の働きです。

ぐっすりねている時は、夢を見ませんが、あさいねむりの時は、夢を見ます。脳の働きが強い時にも、夢を見ます。目が覚めている時は、夢を見ません。

B 二十四時間後

あさいねむりの時は、夢を見ます。ぐっすりねている時は、夢を見ません。脳の働きが強い時は、夢を見ます。

C 二週間後

ねむりがあさいと、夢を見ます。ぐっすりねむっている時は夢を見ません。

「ちがいくらべ」

五才児

A 読み聞かせ直後

ばかいきている。かあさんはおっぱいで、おとうさんは、ビールで、ばかがおっぱいで、あかちゃんが生まれる人、もちろん、おかあさんだよ。

B 二十四時間後

(そんなの読まないよ。)

C 二週間後

(わすれちゃった。)

八才児

A 読み聞かせ直後

(おもしろいことがあったよ。)
 はは ばいばいで ばば かんばい。
 (のところが、おもしろかったなあ。)

はか しんでから、ばか 生きている。
 はいはい ばいばい。

はら すべすべで、ばら べんべん。
 はち、ぶんぶん、ばち べんべん。

(?) ぽっかりで……

B 二十四時間後

はは ばいばい、ばば かんばい。
 はち ぶんぶん、ばち べんべん。

はらは つるつる、ばらは ばらばら。

はいはい ばいばい。

C 二週間後

はいはい ばいばい。
 はは おっぱい、ばば かんばい。

はち ぶんぶん ばち ばんばん はら つるつる……